利尻富士町（りしりふじちょう）　岩垣 みなみ さん

出身地：東京都　墨田区
直前の居住地：東京都　墨田区
利尻富士町居住歴：７年６ヶ月

利尻富士町に移住したきっかけ

大学2年生のときにはじめて利尻島を訪れ、そのときの感動や経験、交流が移住のきっかけになりました。
利尻島に行く事になった経緯は、利尻富士町が行っていた「離島交流事業」というものにゼミで参加したのがきっかけです。はじめて訪れた利尻島は、東京とは全く違う時間の流れとか、人のあたたかさというのを感じて、直感で「ここに住みたい」と感じました。

移住前の利尻富士町のイメージ・知識等

利尻島に行くことがきまったとき、恥ずかしながら利尻島の場所も名前も知りませんでした。離島ということもあり、勝手なイメージですが、大きなスーパーやコンビニはないんだろうなあ、都会のような娯楽がないから、休みの日は家で過ごすのかなあと想像していました。利尻島に何度も訪れるうちに、自然がすごく豊かで、山も海もあって色々な遊びができること、周りの人がとっても親身になってくれること、食べ物がおいしいことを知りました。

住んで実感！利尻富士町のいいところ

外遊びと食です。とにかく遊べる場所も遊びの種類もたくさんあります！
利尻島には山も海もあり、さらに春夏秋冬様々な遊びを楽しむことができます。夏は登山や海水浴、サイクリング、SUP･･･、秋は山菜採りやサケ釣り、冬はバックカントリー、スノーシュートレッキング etc･･･。
船に乗ればお隣の礼文島にも稚内にも行けるので楽しみ方は無限大だと思います。
あとは北海道といえば！の「食」です。東京に住んでいたころは海産物が苦手だったのですが、利尻島に来て、「だまされたと思って食ってみれ！」と言われて食べたものが全部美味しくて、いままで何でこんなに美味しいもの食べなかったの！？と後悔するくらいウニもタコも帆立もアワビも今では大好きになりました。
北海道の食はやっぱり特別なんだと思いました。

利尻富士町ならではの生活エピソード

夏になると昆布干しを島民総出で行います！朝3時に起きてそれぞれ昆布干場へ行き、漁師さんがとってきた昆布をみんなで干していきます。最初こそ腰も身体も痛くて筋肉痛になりましたが、朝から活動するのはとても気持ちが良くて、島外から移住してきた身としては新鮮でとっても楽しいです！
普段お店に並んでいる昆布は真っ黒で短くカットされたものですが、干すときには海から持ってきたままなので、長いもので 3m以上ある昆布もあることに驚きました。時間があるときは、昆布干しが終わる 6～7 時頃にそのまま近くのポン山へ登りに行くこともあります。朝からたくさん動けて充実した日になります♪

利尻富士町のおすすめスポット・グルメ

利尻島の北海道遺産のひとつ
「泉の袋澗」

利尻島の北海道遺産「利尻島の漁業遺産群と生活文化」に認定された代表的な場所のひとつです。「袋澗（ふくろま）」は、波よけ用に石積み（堤体）で囲った小さな船だまりを指しますが、これは漁獲したニシンを時化で失わないよう袋網に小分けして一時保管するためのものでした。
泉の袋澗は、今もなお現役で機能していることから、いわば「生きた文化財」としての価値があり、利尻島の漁業遺産群のなかでも象徴的な存在となっています。
ここからはペシ岬を見ることができ、振り返れば利尻山を望むことも出来ます。夏の朝早い時間であればウニ漁などの漁風景も見ることが出来る、穴場スポットです。

移住に興味がある方へのメッセージ

元住んでいた場所から新しい場所へ移住するのは勇気がいることだし、環境が変わるのは誰だって不安に感じると思いますが、迷っているなら行動に移せば、いままでとは違った人間関係を築けたり、新しい趣味を見つけることができると思います！
もし、悩んでいるのであれば、お試し暮らしなどの制度を利用して、体験してみれば、その地域のことを知ることが出来るし、移住を決めたときの助けにもなると思います。
わたしは利尻島にきて、昆布干しのお手伝いだったり、山登りだったり、海での遊びだったり、東京にいたらできなかったことをたくさん経験できて、移住して本当に良かったと思っています！